

## 中学校第2学年 美術科学習指導案

日時 平成25年10月17日(木) 2校時

指導者 教育センター所員 小田 千尋

### <題材の概要>

B鑑賞において、日本の絵画作品の特徴の1つである独特の色彩や装飾について、鑑賞の視点の1つの足掛かりとして金を使った作品を用いて対話型鑑賞を行う。1時間目は日本の絵画作品を見て、その中にある色彩や形、表されているものを基に、どのように見るか、そして、考えたことや感じたことをどのように伝えるかということに対話型鑑賞を通して学ぶ。2時間目は、日本の美術作品でよく用いられる金の表現に焦点を当て、その特徴を足掛かりにし、対話型鑑賞によって深めていき、これまで気付かなかった日本の美術作品の表現の美しさや面白さに気付かせる。

#### 1 題材名 金に魅せられた人々

#### 2 題材設定の理由

##### (1) 題材観

平成20年1月の中央教育審議会の答申においては、学習指導要領の基本方針の1つとして、「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動や、我が国の美術や文化に関する指導をより一層充実する」ことが示された。このことを受けて、平成20年3月に示された中学校学習指導要領では、美術科の目標に美術文化についての理解を深めることが新たに加えられた。つまり、鑑賞においては日本の美術についての学習を重視するとともに、第2及び第3学年では諸外国の美術や文化との相違及び共通性に気付くことが求められることになった。また、中学校学習指導要領解説美術編には、「独自の文化を生み出してきた日本の美術文化のよさを十分に味わい理解させ、よきものとして愛着をもたせること」とあり、更に「国や地域、民族によって、美術の表現の主題、描写、材料など表現方法や造形感覚に相違があることに気付かせる」と示されている。日本の美術文化の特徴の1つとしてよく挙げられる金を用いた表現を、見る視点の1つとすることをねらいとし、今回作品を鑑賞する。

鑑賞する作品の特徴としては、日本人がもつ特有の美意識や習慣が描かれていることが挙げられる。これらの作品には、時代により変化はあるものの、表現方法に関しては普遍的であり、現代にも受け継がれている日本特有の技術であると考えられる。そのため、日本美術の作品を鑑賞する中で、色彩や装飾などといった日本特有の表現の豊かさに気付くことができるようにする。

金を1つの足掛かりとし、日本美術における鑑賞の対象として紙本金地着色の屏風画や、金を用いた蒔絵などの鑑賞に取り組む。金を用いた日本の美術作品の鑑賞は、学習指導要領の共通事項に挙げられている材料としての特徴や光の性質、色彩について学習することが可能な題材と言える。中でも、室町時代や江戸時代の絵画作品に用いられる金の表現は、日本の文化として特徴的であり、それに気付かせることは、我が国の美術文化への関心を高めることにつながると考える。

## (2) 生徒観

本学年の生徒は、活発的な生徒が多く、制作活動や鑑賞活動にも意欲的に取り組む姿が見られる。本学級の生徒も、美術の制作活動・鑑賞活動共に意欲的に取り組む様子が見られる。積極的に意見を言ったり、発表したりすることができ、人の意見に対して耳を傾け聞こうとする態度も見られる。しかし、対話型鑑賞活動については慣れておらず、作品を鑑賞する際に、どこに視点をおき何を読み取っていくべきなのかについて、気付いていない生徒が多い。教師の発問に対して作品から感じたことを発表することはできても、それを生徒同士の対話によって深めていくことはまだできていない。また、日本美術の作品に関する本格的な鑑賞は今回の鑑賞活動が初めてであることから、鑑賞する視点を示す必要があると考えた。鑑賞する視点を理解した上で、鑑賞活動に取り組むことで、作品についてより深く考えたり感じたりすることができるようになり、鑑賞の能力が高まると考える。

## (3) 指導観

「A表現」及び「B鑑賞」において共通に必要な資質や能力の視点から整理をした〔共通事項〕に示されている「形や色彩、材料や、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」は、作品などのよさや美しさを主体的に味わうために不可欠な要素と言える。今回の鑑賞活動は、対話を通して描かれている色や形を基に様々な推測をし、その推測したものを鑑賞者同士の対話により交流する活動となるので、その中で日本美術特有の表現について気付かせることが重要となってくる。

また、ここで述べる対話型鑑賞活動とは、生徒の考える力や感じ取る力の向上を目的とした対話による美術作品の鑑賞法を指すものであり、生徒が作品を観た時に感じたことや考えたことを重視し、想像力を喚起しながらコミュニケーションを取る活動である。作品を作者の経歴や美術史的考察によって価値付ける知識重視のこれまでの鑑賞法と異なり、作品と鑑賞者同士のコミュニケーションを通じた関係によって意味が付加される鑑賞法である。

今回、日本美術の作品の中でも意匠としての金に注目して鑑賞させるに当たって、日本の文化の1つとして捉えやすくするために、見る視点を示し、その視点を基に鑑賞させたり、本物の金箔を資料として見せたりすることで、金の特徴をつかませるようにする。そこから生徒同士の対話を通して、見えてくる色彩や装飾、金を使用した意図など個々の見方や価値意識を深めさせたい。対話型鑑賞の中で、生徒に作品の鑑賞の視点に気付かせるように教師が舵取りをしながら進めることで、視点の持ち方や、そこから様々なものを読み取り、自分なりに“感じる”ことや“考える”ことができる生徒像を目指したい。

## 3 題材の目標

- 日本の美術作品の特徴に関心を持ち、主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとする。

【美術への関心・意欲・態度】

- 日本の美術作品やその表現方法の多様性に気付き、よさや美しさなどを味わう。【鑑賞の能力】
- 日本の美術作品の特徴などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい感じ取っている。【鑑賞の能力】

#### 4 題材の評価規準

##### 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<p>・日本の美術作品に関心を持ち、主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとしている。</p>	<p>・金の表現を足掛かりとして、日本の美術作品や美術文化の特徴に気付き、よさや美しさなどを味わっている。</p> <p>・日本の美術作品の特徴などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい感じ取っている。</p>

#### 5 題材の指導計画と評価規準 (全2時間)

○…主な活動・指示, ●…指導の中で意識しておくべき中心発問的な指示

過程	学習活動	教師の指導・支援	評価の観点と方法
1 時 間 目	<p>1 日本の美術作品を用いて対話型鑑賞のルールを知る。</p> <p>・作品に何が描かれているかよく観察すること。</p> <p>・気付いたことや考えたことは、手を挙げて発表すること。</p> <p>・人の発表をしっかりと聞くこと。</p> <p>・人の意見を笑ったり否定したりしないこと。</p>	<p>○ 作品(「径」小倉遊亀)をスクリーンで見せる。</p> <p>① 季節は?</p> <p>② 関係性は?</p> <p>③ 何をしている?</p> <p>対話型鑑賞の留意点</p> <p>・対話により作品に対する見方を深めさせること。</p> <p>・作品の表現上の特徴から季節や人物像を推測させること。</p>	<p><u>美術への関心・意欲・態度</u></p> <p>提示された絵画に関心を持ち、主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとしている。(活動の様子, 発言内容)</p> <p><u>鑑賞の能力</u></p> <p>日本の美術作品の特徴などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい感じ取っている。(発言内容, ワークシート①)</p>
	<p>2 様々な日本の美術作品の鑑賞をし、印象や気付き、作品から推測できることなどを自由に発表する。</p>	<p>○ 日本の美術作品をプレゼンテーションソフトで見せる。</p> <p>《作品》</p> <p>「風神雷神図屏風」 俵屋宗達</p> <p>「神奈川沖浪裏」 葛飾北斎</p> <p>「唐獅子図屏風」 狩野永徳</p> <p>「八橋蒔絵螺鈿硯箱」 尾形光琳</p> <p>「松林図屏風」 長谷川等伯</p> <p>○ それぞれの作品で気付いたことなどを自由に発表させる。</p> <p>・共通点や相違点に注目させる。</p>	
	<p>3 提示された作品について気付いたことや感じたことを書く。</p>	<p>○ 「唐獅子図屏風」について気付いたことや感じたことをワークシートに書かせる。</p>	
	<p>4 まとめをする。</p>	<p>○ 家の中にある「金」の物を探してくるように指示する。(宿題)</p>	

<p style="text-align: center;">2 時 間 目 (本時)</p>	<p>1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・「金」のイメージを発表する。</p> <p>2 日本の美術作品を鑑賞し、特徴を挙げる中で、特異性に気付く。 ・作品を鑑賞して気付いたことを発表する。</p> <p>・色紙の「金」と本物の「金箔」を比較して感じたことや気付いたことを発表する。</p> <p>3 日本の美術作品における金の意味について考えたり、感じたりしたことを発表し、まとめる。</p> <p>4 様々な日本の美術作品があり、それぞれに日本特異の表現があることを感じる。</p>	<p>○ 宿題の「金」探しの結果をグループで出し合い、発表する。</p> <p>○ 作品を1枚ずつ提示する。 《作品》 「風神雷神図屏風」俵屋 宗達 「八橋蒔絵螺鈿硯箱」尾形 光琳 「紅白梅図屏風」 尾形 光琳 「舞楽図屏風」 俵屋 宗達</p> <p>○ 色彩、装飾に着目させ、「金」が共通して使用されていることに気付かせる。</p> <p>○ 「風神雷神図屏風」一部拡大を見せ、金箔が貼ってあることに気付かせる。</p> <p>○ 金色の折り紙と金箔を比較することで本物の「金」の特徴に気付かせる。</p> <p>● 使用されている「金」の表現には日本独自の思いや感覚があることに気付かせる。(装飾的効果、空間演出、時間演出)</p> <p>○ 鑑賞の事前事後で、見方や感じ方にどのような変化があったかワークシート②に書かせる。(「唐獅子図屏風」を使用)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">美術への関心・意欲・態度</p> <p>日本の美術作品の特徴に関心をもち、主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとしている。 (活動の様子、発言内容)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">鑑賞の能力</p> <p>・金の表現を足掛かりとして、日本の美術作品や美術文化の特徴に気づき、よさや美しさなどを味わっている。</p> <p>・日本の美術作品の特徴などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい感じ取っている。 (発言内容、ワークシート②)</p>
---	---	---	--

## 6 本時の指導(2/2時間)

### (1) 本時の目標

日本の美術作品における表現方法に興味をもち、色彩や装飾の表現方法を鑑賞することで、それぞれの作品の色彩の特徴など表現の相違や共通点に気づき、それらの表現には日本文化特有の表現がされていることを感じる。

### (2) 本時の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・日本美術の作品の特徴に関心をもち、主体的にその特徴や美しさを感じ取ろうとしている。	・金の表現を足掛かりとして、日本の美術作品や美術文化の特徴に気づき、よさや美しさなどを味わっている。 ・日本の美術作品の特徴などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい感じ取っている。

### (3) 本時の指導過程

過程	学 習 活 動	教師の指導・支援
導 入	1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	○ 宿題の「金」探しの結果をグループで出し合い、「金」のイメージを考えさせ、発表させる。 ○ プレゼンテーションソフトで前時の作品を見せ、鑑賞の視点や対話のルールを振り返らせる。 ○ 日本の美術中の金の表現、題材や形、色彩を鑑賞していくことを確認する。
	金の表現について考えよう。	
展 開	2 日本の美術作品を鑑賞し、特徴を挙げる中で、金に気付く。	○ 日本の美術作品を1枚ずつ見せる。 作品：「風神雷神図屏風」 俵屋 宗達 「八橋蒔絵螺鈿硯箱」 尾形 光琳 「紅白梅図屏風」 尾形 光琳 「舞楽図屏風」 俵屋 宗達
	・4つの作品を鑑賞し、気付いたことを発表する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">【美術への関心・意欲・態度】活動の様子、発言内容</div> <b>「何か気付いたことは、ありますか。」</b> ・色や共通点などに注目させるようにする。  ○ 色彩や表現技法として気付いたところなど、自由に発言させる中で共通点の「金」に気付かせる。 ○ 「風神雷神図屏風」(全体)を見せ、背景の金に着目させる。

<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>・折り紙の金と金箔との相違点を発表する。</p> <p>3 日本の美術作品における金の意味について考えたり、感じたりしたことを発表し、まとめる。</p> <p>4 様々な日本美術の作品があり、それぞれに日本らしい表現がされていることを感じる。</p>	<p><b>「何か気付いたり感じ取ったりしたことはありますか。」</b></p> <p>○ 「風神雷神図屏風」(一部拡大)を見せ、金箔が貼ってあることに気付かせる。</p> <p>・実際に金箔と折り紙の金を班ごとに配付し、見せることで、光の反射や、表面の凹凸などが折り紙の金色とは違うことに気付かせる。</p> <p>・宿題で探してきた「金」の物がどうであったか想起させる。</p> <p>◎ 再度「風神雷神図屏風」(全体)や、白抜きの「風神雷神図屏風」、モチーフを抜いた金・青空・色面の屏風を比較させ、日本らしく感じる理由を考えさせる。</p> <p><b>「どれが日本らしく感じますか。」</b></p> <p><b>「いろいろな理由があると思いますが、『日本らしい!』と思った理由を話し合ってみましょう。」</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【美術への関心・意欲・態度】活動の様子、発言内容</p> <p>【鑑賞の能力】発言・発表内容</p> </div> <p>○ 日本らしさを感じた理由が他の3つの作品にも共通してあることに気付かせる。</p> <p>○ 「唐獅子図屏風」について1時間目にしたことに加えて、更に気付いたことや感じたことをワークシート②に書かせる。</p> <p>○ 鑑賞の事前事後で、日本の美術作品や美術文化に対して見方や感じ方にどのような変化があったかワークシート②に書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【鑑賞の能力】ワークシート②</p> </div>
--	--	---

(4) 本時の学習に即した評価の判定基準とCの生徒への指導の手立て

	おおむね満足(B)	十分満足(A)	指導の手立て：C
関	金の意味やイメージを考えることに関心をもち、主体的によさを感じ取ろうとしている。	学習内容を十分に把握し、作品のよさを感じ取ろうとしている。	日本の美術に興味をもてない生徒には、身近なCM(トヨタ)等に使われている日本美術の作品を見せ、金との関係をイメージさせる。
鑑	<p>金を使った日本美術を鑑賞し、金の意味やイメージについて考え、そのよさや美しさなどを感じ取り、日本の美術文化の特性やよさに気付いている。</p> <p>(評価の事例)</p> <p>「金が日本美術では空とか草を表している。」</p> <p>「金によって華やかな感じがする。」</p> <p>* 対話やワークシートの中で、金の特性を自分なりに捉えた内容が認められる。</p>	<p>日本美術のよさや美しさを豊かに味わうとともに、自分なりの価値をつくりだしている。</p> <p>(評価の事例)</p> <p>「金の光や高貴な感じが理想の世界を表現している。」</p> <p>「金を使うことで、それ以外が引き立って特別な感じになっている。」</p> <p>* 鑑賞して読み取った内容を、日本らしい表現として感じ取ろうとしている。</p>	<p>日本の美術文化の特性に気付くことができない生徒には、金を使用しているものと、していない日本美術を比較鑑賞させる。</p> <p>金の部分がもし、金でなかったらということを想像しながら鑑賞させ、豊かな鑑賞ができるようにする。</p>